

は じ め に

鹿児島県立屋久島高等学校
校 長 中 間 弘

本校は、一島一校で全校生徒 230 人程の小規模校ですが、生徒職員が力を合わせ「地域に信頼され、愛される学校づくり」に励んできました。普通科環境コースの探究活動や情報ビジネス科の地域貢献活動、高校生クラブ「ぼんだま」のボランティア活動など特色ある取組が広く地域に知られ、期待されています。

昨今の教育事情は、Society5.0 など社会的要請と共に、新しい学力観の元に大きな変革の時を迎えています。生徒が幅広く情報を収集し、相互に意見を交換しながら考え、情報を発信していく力を育むことが求められ、GIGA スクール構想をはじめとする情報化社会に対応した ICT を活用した学習が必須となってきました。我々教員もこの要請に外れることなく、また乗り遅れることなく変化に対応した授業力を身につけなければならなくなっています。

本校でも ICT 機器を活用した授業に取り組む職員が増え、これまでの黒板とチョーク・プリントだけの授業から様変わりしつつあります。例えば国語の漢文では、プレゼンテーションソフトなどを使って板書を代替し、白文や書き下し文、訓点を入れた訓読文を何度も切り替えて表示することで、板書を遙かに凌ぐ効率的で効果的な授業が展開できています。グループ活動で紙にまとめたものをプロジェクターに投影して情報共有を図ったり、探究活動の発表をプレゼンテーションソフトで行ったりと、活用の幅が広がっています。配備された機器を有効に利用した授業・学習の在り方について、まだ模索途中ではありますが、よちよちながらも歩を進め始めたところですので、職員が自己研鑽を積みつつ生徒と共に成長してゆくことに期待しているところです。

これからの生徒の学習では、学習課題を発見する力や自ら学び続ける意欲をつけることが求められます。例えば総合的な探究の時間を充実させるには、リサーチクエスチョンを引き出し、仮説を立てて探究することが大切でしょう。こうした生徒の活動を支えるに当たって、我々教員が研究や実践を論文にまとめることは、現在実践している教育活動を振り返り、課題を認識すると共に、今後の改善や向上を目指すことが出来る点で大きな意義があると思います。今後はこれまでの研究成果を踏まえながら、より一層確かな学力を育成する授業作りに軸足を置いた研究が展開されることに期待したいところです。

この研究紀要を御高覧頂き、多くの方々から忌憚りの無い御意見・御指導を賜れば幸甚です。